

農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー登録票（基本情報）

254

| | | | | | |
|------------|--|--------------------------|-------------------------|-----------------------------|---------------------|
| ふりがな 氏名 | あかさか たけし 赤坂 猛 | | | | |
| 所属先 | 所属先名称 | ファームエイジ株式会社 | | | |
| | 役職名 | 顧問 | | | |
| 専門分野 | 捕獲手法 侵入防止技術 周辺環境整備 地域合意形成 野生動物管理（生息調査含む） 処理（焼却・減容化） 利活用（食肉利用等） その他（ ） | | | | |
| 対象鳥獣 | シカ ハクビシン カラス その他鳥獣（ | イノシシ アライグマ カモ （ | サル アナグマ ヒヨドリ （ | クマ（ヒグマ） スズメ ムクドリ （ | |
| 対応可能地域 | 全国 近畿 その他※特定の都道府県、地域（ | 北海道 中国 （ | 東北 四国 （ | 関東 九州 （ | 北陸 沖縄 東海 （ |
| 免許及び資格 | 狩猟免許（銃：取得年 年、 わな：取得年 年） 鳥獣保護管理（ 鳥獣保護管理プランナー ） 鳥獣保護管理士（ ） その他（ ） | | | | |

| 活動実績 | |
|-------------------|--|
| 活動期間 | エゾシカ・アライグマ講習会（2020年1月、2月、6月、7月、2021年3月 等） |
| 地域 | 北海道 富良野市、士別市（2回）、積丹町、黒松内町、中札内村 |
| 対策の種類 ※該当に○を記入 | 捕獲手法 侵入防止技術 周辺環境整備 地域合意形成 野生動物管理（生息調査含む） 処理（焼却・減容化） 利活用（食肉利用等） その他（ ） |
| 対象獣種 ※該当に○を記入 | シカ イノシシ サル クマ（ツキノワグマ・ヒグマ） ハクビシン アライグマ アナグマ カラス カモ ヒヨドリ スズメ ムクドリ その他鳥獣（ ） |
| 活動の内容 | <p>1. エゾシカ講習会（2020年1月・富良野市） 北海道庁農業改良普及センターの依頼でエゾシカの生態及び管理に関する講演（70分、演者 赤坂）及び被害防止対策に関する実演（40分、演者 ファームエイジ株式会社担当者）を実施した。参加者は、農業者20名であった。富良野市では農地と接する山極に2mのネットフェンスを張り巡らしてきており、エゾシカによる農業被害の低減に努めてきたが、近年、被害が増加傾向にあることから、今回の「講習会」の開催となった。参加者の発言から、特定地区でのエゾシカの目撃や被害の増加がみられることから、エゾシカが「特定の箇所」から農地へと出入りを行っていることが推察されたため、融雪後にネットフェンスを点検するよう提案した。</p> <p>2. アライグマ講習会（2020年2月・2021年3月士別市役所、2020年6月積丹町役場、同7月黒松内町役場）市役所等の依頼により開催された。いずれも、アライグマの生態及び管理に関する講演（70分、演者 赤坂）及び捕獲ワナの実演（30分、演者 ファームエイジ株式会社担当者）を実施した。参加者は、80名（士別市）から30名（積丹町等）であった。いずれも、受講生はこれからアライグマの捕獲に従事する方々であった。赤坂からは捕獲に際しての留意点として、「アライグマの生態と群れ構成等を踏まえた捕獲」を心がけるよう強調した。次に、一例を示す。Aさんが罠を設置したところ、6月に初めて1頭（♂、体重2kg）を捕獲した。このことから、Aさん宅周辺には、以下のようなアライグマの群れの生息が推測される。子供が捕獲されたことから、母個体1頭と同腹の子供が他に3頭（4頭の子を出産と仮定）生息していることから、これら4頭をすべて捕獲しきらなければならないこと。さらに、成獣の♂1頭がAさん宅周辺にナワバリを形成していることが推定されること…。要するに、適当に捕獲してはならない、ことを理解してもらえるよう説明に努めた。ちなみに、子供4頭のうち♀2頭（と仮定）を捕り逃がすと、この♀2頭は子別れ後の晩秋には母の行動圏の近くに自身の行動圏をもち（早ければ）翌冬に交尾・5月頃に出産・育児を始めるであろう。結果、Aさん宅の周辺にはアライグマの血縁・母系集団が定着し個体数を一気に増やしてゆく、ことになる。</p> <p>3. エゾシカ被害防止指導（2019～2020年、中札内村）2019年、役場からエゾシカの被害対策を相談され、現地を視察した。現場は、日高山脈の東に広がる十勝平野の農業地帯のなかに位置する約20haの農地であった。被害農地を区画ごとに電気柵で囲うには、数十キロになってしまう。農業者の方に「エゾシカの動向」を聴取したところ、エゾシカは冬期間は姿を視ない、視るのは5月から11月頃のみ、毎年メスの群れ（10頭くらい）及び♂個体（5頭くらい）、との情報を得た。このことから、エゾシカの集団は、毎年季節移動（日高山脈→札内川・河畔林→農耕地の防風林）をしてくと推察される。エゾシカが十勝の平野部の農業地帯に生息できるのは、「防風林帯」（幅70m、長さ500m）を利用している為であると推察。野生動物の生息環境の3要素（cover, food, water）のうちから、cover即ち「隠れ場」を奪い獲ればエゾシカの群れはこの農業地帯に生息することはできない。以上から、防風林を電気柵で囲うことを提案し、採用された（施行距離は2kmほど）。当地のエゾシカの出現状況は、施工後にはほぼなくなり、被害も明らかに減少した。引き続き、注視してゆくことにしている。</p> |